館山市立博物館報

ミュージアム発見伝

No. 88

2014.3.25

【本館】〒294-0036 千葉県館山市館山351-2 TEL0470-23-5212 FAX0470-23-5213
【分館】〒294-0036 千葉県館山市館山1564-1

◆開館からの観覧者 【本館・館山城】1,769,976名 【分館】261,860名
（平成26年2月28日現在）

開館30年の節目から

市立博物館30周年記念展「展示ポスターにみる博物館の歴史」（渚の博物館）

ミュージアム・サポーター「甲冑士」の活動

ミュージアム・サポーター「絵図士」の活動

館長　岡田晃司

館山市では、昭和57年の館山城（八犬伝博物館）開館を皮切りに、翌58年に本館開館、平成23年には、移譲を受けた千葉県立安房博物館を、市立博物館分館（渚の博物館）として再開館し、博物館の規模を拡大してきました。

この30年の年月は博物館界の運営スタイルをさまざまに変えてゆきました。博物館の活動の場を館外へ広げ、市民が博物館運営を支える活動を行い、地域の歴史資産を扱う観光的役割を強くし、行政直営を見直す流れもつくられました。

当館でも、歩きながら地域を再発見する「歴史探訪」の開催や、絵図士・甲冑士といった博物館事業をサポートするボランティアの育成、旅行者へも向けた地域探訪マップの作成や甲冑の着用体験など、地域や博物館をより身近にする事業を展開してきました。

そのなかで開館当初から大切にしてきたことは、あくまでも地域にテーマを求めた事業の展開であり、地域の資料調査をベースにした展覧会の開催です。地域に所在する資料をも博物館資料として認識し、分かりやすく情報提供していく活動が、地域博物館の役割を地域のなかで高めていくと考えています。

平成25年度 特別展

安房の干鰯

～いわしと暮らす、いわしでつながる～

2月1日(土)～3月16日(日)

「干鰯」は、鰯を干して作られる肥料で、江戸時代に多く利用されました。房総は全国的な干鰯生産地で、特に九十九里が有名です。今回の特別展では、これまで実態が明らかにされていなかった安房の干鰯を取り上げました。また、干鰯の生産・流通を通じた安房と他地域の人々との交流にも注目しました。以下、概要を紹介します。

1 関西から房総へ

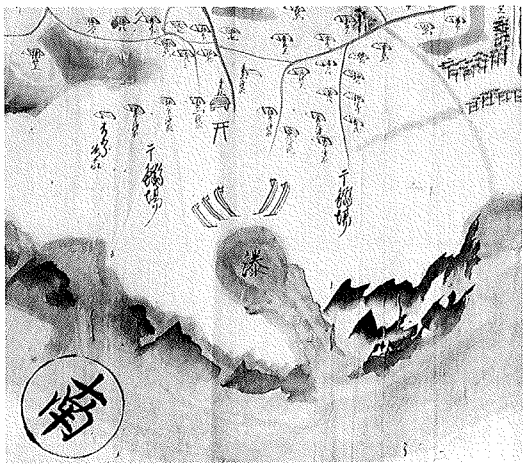
徳川幕府の成立によって江戸の人口は急速に増加しました。当時の関東漁業では鮮魚の供給が追いつかず、先進的な技術を持つ関西の漁師たちが、多数関東へやって来ました。彼らの目的は鮮魚だけではありません。当時、関西で盛んだった綿作には大量の肥料が必要であり、原料となる鰯を求めて房総へと進出したのです。彼らにより、地引網や八手網による鰯漁が伝えられ、房総は全国的な干鰯生産地となります。

2 いわし漁の風景

房総の各地では、地形に見合った漁法を用いて鰯漁を行っています。長大な砂浜が広がる九十九里は、大規模な地引網に適していました。これに対して、上総国の勝浦周辺から安房国では、海岸が岩場となっている場所が多いため、八手網がおもに用いられました。

3 干鰯と〆粕

漁獲された生鰯は、海岸部の「干鰯場」に敷きつめて天日干しされ、干鰯に加工されました。干鰯場の利用には税や上納金が課されている場合もあり、課税方法は領主や村によって異なっていました。また〆粕は、生鰯を釜で煮た後に油を絞って作られる肥料で、油は魚油と呼ばれ、安価な行灯油などとして利用されました。



4 海をわたる干鰯

江戸周辺の海上輸送では、押送船と五大力船という船が多く用いられました。押送船はスピードが求められる生魚の輸送に適しており、五大力船は一度に大量の物資を輸送できる点が特徴です。安房の干鰯は、五大力船を利用して江戸・浦賀の問屋へと運ばれました。また、安房の人々は、上総で生産された干鰯類の海上輸送を担うこともありました。

5 干鰯争奪戦

関東の干鰯は、江戸と浦賀の問屋に出荷されましたが、両者の間では激しい争奪戦が行われています。安房の生産地や船乗りも、この争奪戦の渦中にありました。

6 江戸と浦賀の問屋

江戸・浦賀の干鰯問屋は、ともに関西に積み送る干鰯を集荷することを目的に成立しました。安房から江戸問屋に干鰯が積み送られたのは、元禄年間（1688～1704）に行われた和田浦（現南房総市和田町）の庄司家による出荷が最初と伝えられています。また、浦賀は干鰯流通だけでなく、漁業や諸商売などさまざまな面で交流がありました。

本展覧会により、安房では多数の小規模な網を用いた鰯漁が盛んに行われていた点、数多くの浦々から干鰯が江戸・浦賀の問屋に出荷されていた点が明らかになりました。それだけでなく、安房の船乗りたちは、九十九里で生産された干鰯・〆粕の海上輸送を担っており、輸送者としても流通に深く関わっていました。

また、ご観覧いただいた地元の方々からは、60年程前には浜で干鰯を作っていた、とのお話を多数うかがうことができました。少し前まで、干鰯は安房の重要な産物だったのです。

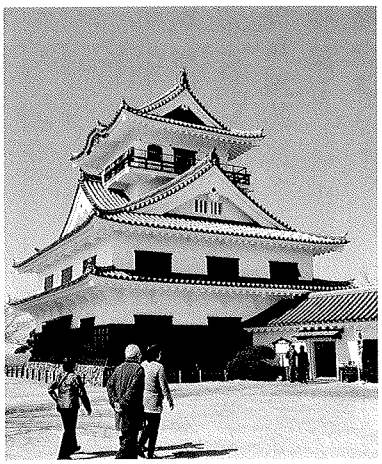
館山城（八犬伝博物館）の改修工事が終了しました

昭和57年の竣工から今年で32年目を迎えている館山城（八犬伝博物館）の外壁等の改修工事を実施しました。

これは、建物の老朽化で外壁に亀裂や剥離が見られていたところに、昨年1月、天守の鯱尾が結束番線の劣化と強風の影響で落下したことによるもので、大掛かりな改修工事となりました。

まず瓦等の落下から来館者の安全を確保するために安全柵並びに防護屋根を設置した上で、補修に係る設計を行い、入札により業者選定を行いました。

工事は、10月19日～20日に行われた里見まつりが終了してから現場作業に着手しました。鯱尾は、破損していない方の鯱尾の型取りをして同じものが複製され、2月3日、1年と1月ぶりに館山城の天守に鯱が復活しました。そして工事のための休館をすることなく、桜の開花時期を迎える前の3月14日に完了しました。



資料紹介

小網寺 降三世明王像

館山市内にある真言密教の古刹・小網寺には、平安時代の仏像や鎌倉時代の梵鐘、密教法具などが伝来していますが、他にも貴重な文化財が伝えられています。絵画類も何点か現存しますが、その中に制作時期が中世に遡ると思われる絹本着色の「降三世明王像」があります。

降三世明王は五大明王の一尊で、三面八臂の姿をして降三世印という特徴的な印を結んでいます。さらに、足下には大自在天とその妻烏摩妃を踏みつけています。五大明王の画像は五壇法などの密教修法において用いられるものです。

小網寺の降三世明王像は状態があまり良くなく、細部の表現まで観察することは難しいのですが、先頃専門家に調査していただき、室町時代の作品であることが判明しました。

この時期は、小網寺の密教法具に陰刻のある審海が開山した称名寺が、房総半島に所領や末寺を持っていた時期と重なります。

小網寺は中世には真言密教の道場としてかなり栄えていたようで、この画幅も修法等で使用されたものと考えられます。

むらの行事 まちの行事

穴掘り（あなほり）

宗派や地域によって違いがありますが、安房地方のお葬式では穴掘りという役目があるところが多くあります。穴掘りと名前はついていますが、実際に埋葬する穴を掘るとは限りません。昔は土葬だったため、実際に埋葬する穴を掘る人たちがいて、火葬が普及した今も名前が残っているのでしょう。かつて穴掘りは、墓地に死者を埋め、土をかぶせてその上に芝を3枚重ね、6角形をした杭を打ちました。穴掘りは、近所の人が2人一組で順番につとめたり、親戚中でもっとも縁の薄く高齢の人に依頼しました。喪家はお酒や食事をだして、穴掘りを慰労しました。

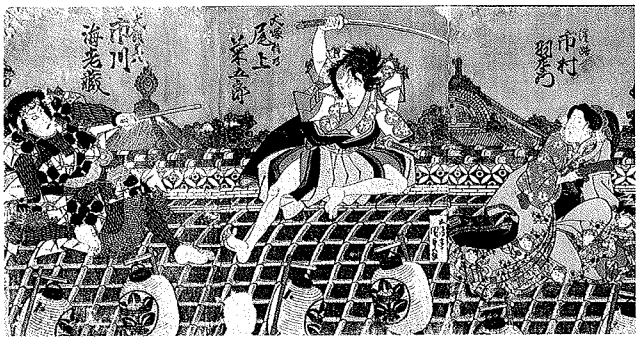
ピックアップ八犬伝

団十郎の七役

江戸で初めて八犬伝の歌舞伎が上演されたのは、大坂での興行の2年後で八犬伝完結の6年前にあたる天保7年（1836）4月、森田座の「八犬伝評判楼閣（はっけんでんうわさのたかどの）」でした。

江戸を代表する人気歌舞伎役者の7代目市川団十郎（当時は5代目海老蔵）は、なんとこの舞台で1人7役を演じました。演じたのは、八犬士の信乃、角太郎（大角）、小文吾、道節と左母次郎、土太郎、鳴神上人。同じ舞台で息子の8代目団十郎は犬江親平（親兵衛）を演じています。

当初、江戸初の八犬伝歌舞伎は、この年の2月に市村座で上演される予定でしたが、事情があって森田座が興行することとなりました。しかし市村座との折り合いが悪く、別の演目に変更。八犬伝が好みだった海老蔵が熱心に市村座にかけあった結果、ようやく上演にいたったといいます。この後、歌舞伎で次々と演じられ、役者や錦絵の相乗効果もあって八犬伝はますます評判を高めていくのです。



（部分）

芳流閣の場面。左は犬飼見八（現八）役の市川海老蔵。天保7年2月に市村座で興行するはずだった芝居の役者絵だけが版行された。この舞台が江戸初の八犬伝の歌舞伎になるはずだった。

博物館の活動 日誌ダイジェスト 平成25年4月～26年2月

◆平成25年4月

7日 【本館】体験教室「甲冑を着よう」開催（以下、日曜・祝日ごとに実施）体験者612名（～2月23日）

20日 【本館】新収蔵資料展「あたらしい資料のご紹介」開催（～6月9日）観覧者13，424名

◆6月

1日 【渚の博物館】安房学講座開催（以下、1月までの第1土曜開催。全8回）参加者延376名

15日 【本館】「甲冑士養成講座」開催。参加者4名。

16日 【本館】歴史教室「古文書を読んでみよう」日曜クラス開催（以下、毎月第3日曜開催。全10回のうち9回）

18日 【本館】歴史教室「古文書を読んでみよう」火曜午前・午後クラス開催（以下、毎月第3火曜開催。全10回のうち9回）参加者延932名

23日 【本館】ピックアップ八犬伝開催（以下、8／25・9／23・11／24・1／26・3／23全6回のうち5回）参加者延127名

◆7月

6日 【本館】収蔵資料展「身近な神さま仏さま」開催（～9月1日）観覧者7，932名

28日 【本館】夏休み子ども歴史教室「城山探検隊」参加者8名

◆8月

10日 【本館】夏休み子ども歴史教室「昔の道具を使ってみよう」参加者16名

29日 博物館実習（～9月3日）↓2名の実習生が博物館の仕事を実地で学びました。

◆9月

6日 【本館・館山城】全館燻蒸のため臨時休館（～9月11日）

◆10月

5日 【本館】新・地区展「那古」開催（～11月24日）観覧者7，350名

27日 歴史教室「わたしの町の歴史探訪那古地区」参加者34名

◆11月

2日 【本館】市立博物館30周年記念展「写真で振り返る博物館の歴史」開催（～12月15日）観覧者5，337名

22日 【渚の博物館】市立博物館30周年記念展「展示ポスターにみる博物館の歴史」（～12月5日）観覧者2，822名

23日 【本館】市立博物館30周年記念館長講座「ふるさとの歴史はおもしろい」参加者29名

30日 【本館】「モントレー万祝」複製制作報告会開催

◆平成26年1月

1日 館山城正月臨時開館（～3日）

◆2月

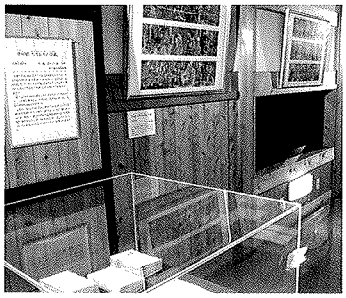
1日 【本館】特別展「安房の干鰯」開催（～3月16日）観覧者4，549名

11日 【本館】特別展講演会「海が語る房総と浦賀湊」参加者47名

19日 博物館協議会開催

御協力に感謝します（敬称略）

寄贈資料名	寄贈者（敬称略）
大日本国誌 安房 第三巻	成田市・渡辺克己
安房震災写真帖	館山市・竹澤泰平
カゴ製作道具	松戸市・齊藤和重
中原淳一絵はがき	鴨川市・宮川柳子
オオガ	南房総市・佐久間幸雄
そろばん・陣中手帖 他	館山市・御子神康夫
万祝	千葉市・熊倉静江
和久家文書	那古地区連合町内会
『七人のお姫さま』	鴨川市・衣川保子
旗指物	野田市・荒木英一
刀剣・房州うちわ 他	館山市・福原健太郎
襖	南房総市・鈴木孝雄
羽釜・アミ 他	館山市・小玉千江子
能蔵院矢・木札 他	南房総市・市村仁
墨塗り教科書・白土関係書類 他	南房総市・田村浩
版画「今様押絵鏡」他	館山市・多喜本岩夫
新聞・洋服 他	館山市・尾形正子
伊勢講大麻	館山市・加茂信昭
バス創業70周年記念乗車券 他	館山市・山杉博子
『南総里見八犬伝』上下	茨城県・菅谷博
酒製造免許・田村忠蔵氏写真 他	館山市・長井晃弘
実川家資料	鴨川市・石井幸八
浴衣	館山市・佐久間邦彦
紐の結び方見本	館山市・鈴木福松
漢詩	館山市・安田豊作
油絵	館山市・菅谷春夫
刀剣・典籍・古文書	館山市・鈴木健三
古文書	館山市・三瓶雅延
朝夷校新築記念絵葉書 他	館山市・齊藤佐
草双紙「八犬伝犬の草紙」他	埼玉県・木下雄次郎
大漁旗製作用具 他	南房総市・江澤利春
鯨の骨	南房総市・菊池晃
館山小唄CD	館山市・松苗禮子
たも	南房総市・東條賢司


八犬伝博物館に新資料を展示

編集後記

今年は里見氏安房国替400年、八犬伝刊行開始200年の節目の年です。

職員一同、ますます親しみやすい博物館にしていきたいと思います。